

## 2019（平成31）年度第1回国立大学法人静岡大学経営協議会議事録

日 時 平成31年4月24日（水）14時00分～15時37分

場 所 事務局棟5階大会議室

出席者 栗村、塩田、鳥居、野田、晝馬、細井、吉林の各委員

石井、丹沢、木村、東郷、手島、寺村、笹原の各委員

欠席者 泉、大石の各委員

陪席者 小谷、河合、白井の各副学長、鈴木、村松の各監事、藤井学長補佐

議事に先立ち、議長から、本年度から新たに就任した委員等について紹介があり、また会議日程についての説明及び出席依頼があった。

### I 前回議事録の承認について

平成30年度第8回国立大学法人静岡大学経営協議会議事録（案）を原案どおり承認した。

### II 審議事項

#### 1 浜松医科大学との法人統合及び大学再編について

議長から、浜松医科大学との法人統合及び大学再編について、資料1により、合意書及び確認書を3月29日に両学長が取り交わし、学内外に公表したとの報告があった。

また、議長から、静岡地区及び浜松地区における大学の将来像・振興策について検討する専門委員会を連携協議会の下に設置し、静岡地区の大学運営検討専門委員会は、丹沢理事を議長とし、静岡キャンパス4学部の学部長・副学部長、グリーン科学技術研究所長、情報学部長、工学部長、静岡キャンパスの創造科学技術大学院担当教員及び浜松医科大学の副学長等を構成員とし、まずは静岡地区の委員のみで開催し、一定程度議論が固まった段階でその他の委員を含めること、課題ごとに適宜WGを設置するなど、具体的な議論を進めていくとの報告があり、意見交換を行った。

（学外委員から出された主な意見）

〔⊗：学外委員の意見等 △：本学側の意見・説明等〕

⊗：静岡地区の大学運営検討専門委員会での議論を是非進めていただきたい。

4月24日に開催された静岡キャンパス部局長等連絡会でどのような議論がされたかお聞きしたい。

△：一つ目は、学生の意見の反映について、ゼミ単位や専修単位を基礎として各部局で意見交換を進めること、また、部局の代表者（各部局からの推薦や公募もあり得る）と執行部との意見交換会の実施など、また、中堅・若手教員の意見の反映についても意見交換を行った。

また、静岡地区の将来ビジョンの3つの柱として、①「地域貢献」②「国際化」③「イノベーション」を挙げ、①「地域貢献」では、新たな社会の構造を示せる人材育成、政策学の人材養成、②「国際化」では、外国人材の活用（日本語

教育等)、アジア地域との国際連携強化(アジア言語の重視、アジアの提携校への学生送り出しの強化等)、国際日本学・創造理学・ABP副専攻等の既存のプログラムのキャンパス単位での総合的展開、留学生と日本人学生の交流の強化など、県立大学国際関係学部との連携、③「イノベーション」では、生命科学・化学分野を軸に医学分野、薬学分野、食品化学分野との連携強化、「技術開発」を越えた「新しい社会の構想」と結びついたイノベーションを県立大学薬学部・食品栄養科学部、浜松地区各学部との連携を課題とし、意見交換を行い、引き続き検討していくこととした。

- ⊕：専門委員会では、将来に亘る県立大学、私立大学を含めた議論を行っていくということか。
- △：「地域プラットフォーム」への対応をはじめとする県内大学との連携を検討していきたい。
- ⊕：地域貢献、地域の政策論を議論する場について、大学院の専攻を新設するなど、社会人の受入れも含め、検討いただきたい。
- △：人口減など、社会全体が向う課題に対して政策提言ができるような人材育成を進めていきたい。
- ⊕：法人統合・大学再編については、各学部から様々な意見があり、その意見が反映されるような委員会になることが望ましい。不安に感じている教職員が多いが、これから先は未来に向けて前向きに進めるよう、導いていく委員会にならないといけない。
- △：積極的に議論をする方向で、前に進むという雰囲気になっている。議論の回数を重ねて、アイデアをできるだけ引き出し、集約しながら進めていきたい。
- ⊕：学内だけの議論では、アイデアは狭いものになるかもしれない。夢のある未来のために、外部の方にオブザーバーとして参加していただくことも必要である。
- △：自治体、産業界、国際交流の中心にいる方など、話題ごとに学外の方に参加していただくことを検討したい。
- ⊕：静岡県ではこれまでも産学官連携、COC+、地方創生等様々な連携を行ってきた。自治体、産業界との新しい連携についても検討していきたい。
- △：ステークホルダーの理解を得ながら進めていきたいと考えているため、協力いただきたい。

### Ⅲ 報告事項

#### 1 平成30年度の静岡大学の主な取り組みについて

議長から、平成30年度の静岡大学の主な取り組みについて、資料2により報告があった。

(学外委員から出された主な意見)

[⊕：学外委員の意見等 △：本学側の意見・説明等]

⊕：平成30年度で終了したCOC+では、様々な取組みをされたが、静岡大学として何を得たのか報告いただきたい。大学として得たものが一つでもあれば、継続していくべきだと考える。

△：中間評価でも指摘があった部分であり、成果等を取りまとめ、後日報告したい。

△：「地域創造学環」及び「産業イノベーション人材育成プログラム」はCOC+の枠組みでの教育プログラムであり、恒常的に実施していきたい。

## 2 経営協議会学外委員からの意見を法人運営の改善に活用した主な取組事例等について

議長から、経営協議会学外委員からの意見を法人運営の改善に活用した主な取組事例等について、資料3により報告があった。

## 3 教育学研究科の改組及び総合科学技術研究科工学専攻の定員変更について

丹沢委員から、教育学研究科の改組及び総合科学技術研究科工学専攻の定員変更について、資料4により文部科学省との協議を行っているとの報告があった。

## 4 平成31年度入学試験実施状況について

丹沢委員から、平成31年度入学試験実施状況について、資料5により報告があった。

## 5 平成30年度卒業・修了者の進路状況について

寺村委員から、平成30年度卒業・修了者の進路状況(3月31日現在)について、資料6により報告があった。

(学外委員から出された主な意見)

〔⊕：学外委員の意見等 △：本学側の意見・説明等〕

⊕：就職先の県内、県外の割合はいかがか。また、就職先のデータは公表されているのか。

△：割合については現在取りまとめ作業を行っている段階で、5月1日現在としてデータを用意する予定である。また学部毎に数年間の就職先実績を公表している。

⊕：学生の関心のある就職先はPRのポイントとなるため、公表するデータはそのような観点で作成いただきたい。

## 6 平成30年度監事業務監査実施結果について

鈴木監事から、平成30年度監事業務監査実施結果について、資料7により報告があった。

# IV その他

## 1 静岡大学関連記事

議長から、静岡大学に関連する新聞記事について、参考資料により紹介があった。

以上